

1 背景と現状

老朽化した下水道本管の点検・調査を進めているが、施設の異常や緊急度判定は調査員による視認により行っているため、多くの人件費が必要となっているほか、判定する調査員により判定結果に多少のバラつきが生じている。

2 解決したい課題

- 画像から管路施設の劣化の特徴（破損・クラック・木の根の侵入等）や劣化度合を捉え、スパン毎・管1本毎の劣化度の数値化や判定を自動化したい。
- 解析結果を報告書作成にも活用することで、報告書作成に要する時間を削減したい。

3 実現したい未来

- 判定にかかる時間を削減することで、点検・調査の日進量を増加させ、委託費用を抑えることができる。
- 劣化度判定の統一化と判定の精度向上が図られる。

4 想定する解決策や技術

テレビカメラ等を用いた管路施設調査へのAIの活用。